

時 間 割				
1 10:00-10:30 10分-15分	開会式 10:00-10:30			
2 10:30-11:00 15分-30分	10:30-11:00 15分-30分	10:30-11:00 15分-30分	10:30-11:00 15分-30分	10:30-11:00 15分-30分
3 11:00-11:30 30分-45分	11:00-11:30 30分-45分			
4 11:30-12:00 45分-1時間	11:30-12:00 45分-1時間	11:30-12:00 45分-1時間	11:30-12:00 45分-1時間	11:30-12:00 45分-1時間
5 12:00-12:30 1時間-1時間30分	12:00-12:30 1時間-1時間30分			
閉会式 12:30-13:00				
主催者 共に関護を学びあい・励まし合いネットワーク				

社会も関心を持ってくださる年々増加する高齢者、
「介護福祉」の仕事を志す若者のステップアップの場、
社会や行政の役割を踏査していただく場、
参加者がともに学び、多くの仲間とつながる。
ぜひ皆様のご参加をお願いします。

【介護福祉の現場を学ぶ1日】 両日とも 10時～13時

共に介護を学びあい励まし合いネットワーク

〒114-0002 東京都北区王子 5-6-2 アパートメント王子神谷 103号

Tel・Fax : 03-3787-3117 PC アドレス : lave9ruka@gmail.com 編集責任者 : 藤原るか

CLA だより 第29号 15/02/22

発行 : 共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク



「CLA (クラ)」はラテン語で憂い、辛さ、気遣い、共感などと云った意味で、英語のケアやケアの語源です。

【公開討論会】
誰でもできる「生活援助」!?
ホームヘルパーの主張! 2014 12/6

日時: 2014年12月6日(土) 13:30~17:30 (13:00~受付開始)
場所: 大正大学 (東京都豊島区、アクセスは裏面を参照)
参加費: 500円 (資料代、当日受付にて)

プログラム:
13:30~15:00 分科会
【A】「生活援助」の歴史
ホームヘルパーという職業は、どのような生活課題から生まれてきたのでしょうか? 改めて新しい命題「生活援助」の歴史を振り返ります。
【B】介護保険を学ぶ
「地域包括ケア」に向けて変化するポイントと、おのれやすて解読、生活援助の担い手としての役割や、制度への疑問を話し合ってみませんか。
【C】仕事を続けるモチベーション
この仕事を続ける理由・辞めたくなる理由とは? 労働条件や職場環境? プログラムとして働くモチベーションを、皆さんはどのように持っていますか。
【D】認知症の人への生活支援
認知症の人の生活支援 (厚生労働省2012年発表)や、その認知症の生活支援に関する、いま必要なのは? ヘルパーの役割を、現場から再確認していきます。

15:15~17:15 公開討論会「ホームヘルパーの主張」
司会: 八木裕子さん (東洋大学教授) 金山穂志さん (株式会社ケアワーク代表)
コーディネーター: 田村裕子さん (民間団体の介護職員専門職大学院代表)
藤原るかさん (ホームヘルパー全国協議会)

分科会からの質問/会場からの質問/アビールの質疑
討論会の主張は、会場の特典です。質疑の自由記述もぜひ事前にお願いします。

申し込み・問い合わせ: 裏面を参照
※当日申し込み受け付けますが、席数に限りがあるため (先着20名) 事前申し込みを優先します

ホームヘルパーの主張!

2014年12月6日
於: 東京・大正大学

主催: 「ホームヘルパーの主張」実行委員会
後援: 東京社会福祉協議会・豊島区社会福祉協議会
地域ネットワーク・こむ
共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク

「生活援助」は介護の柱

介護保険からの切り離しは許さず

共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク



100年先の介護を考える。八木裕子さん (東洋大学・教員)

特集

ホームヘルパーの主張

2014年の年の瀬12月に入った集会は75名の参加者と介護保険とヘルパーの仕事について熱いメッセージ50件近くが寄せられました。当日の様子をご紹介します。
 当日は石田先生が体調不良で欠席となりまして「ホームヘルパーの歴史」を希望され参加された方には、分科会を変更し、ご協力頂きまして、ありがとうございます。また、事務局の不幸で資料が一部、後日となりました。不幸、お詫びを致します。

分科会

○ 介護保険を学ぼう

担当：森永さん（ホームヘルパー全国連絡会・介護福祉士）
 ：大山さん（「かいごの学舎」校長・社会福祉士）

参加者の感想

- もう少し中身に入った話ができると良かった。分科会で討論でき、制度のポイントは良くわかった。
- 今度の改正で介護保険自体の理念が崩れてしまったような気がします。理念なき制度がとても怖く感じました。
- 新しい総合事業について概略を知ることができた。自立の概念が変わっていたことは驚きました。
- 専門用語が多く学生の私には難しい点もありましたが非常に参考に「」になりました。
- サービスの概念、自立について変化を聞き驚きました。利用する人々へはどのように伝えられるか心配です。専門職とボランティアとは利用者にとって区別できないだろうし、制度にふりまわされるのはやり場がないと思いました。



○ 仕事を続けるモチベーション

担当：山崎さん（昭島市福祉研究所・介護福祉士）
 ：加藤さん（ホームヘルパー・介護福祉士）

参加者の感想

- 初めての会合でした。あまりまとまりのない会でしたが、自分のいるところとはかなり変わっているなと思いました。本当はもっとじっくり話をしたかった。聞きたいことがいっぱいありました。またこのようなチャンスがあったら参加させてください。
- いろいろな立場の方がおりその立場それぞれの意見が聞け参考になった。
- 賃金アップ、誇りをもてるように！現実には疲弊したヘルパーがあちこちに！



かいごの学舎 in 福井 2015

<http://kaigo2015.jp>

-開催日時-

3月14日(土)8:30~受付開始

会場：日本社会事業大学(中野区)中野
 参加費：一般2,500円 学生1,000円(当日現金)
 基本期間：2月15日(日)~3月11日(水)

応募方法:

メールの場合：ホームページの「お問い合わせ」から申し込みください。
 FIDの場合：申込フォームに申し込みのうえ、FIDの申込書に添付して下りし
 〒250-0292 福井県福井市三ツ木1-1-1 日本社会事業大学 事務局
 申し込み期限：申込フォームに記入のうえ、申し込み期限まで届くようにしてください。

申し込みフォームはホームページの「お問い合わせ」から申し込みください。
 ご不明な点は、ホームページの「お問い合わせ」からお問い合わせください。

主催：かいごの学舎実行委員会

- * 最後は自分の家だと考えていますが、場合によっては施設利用になることあるだろうとも思います。その時にスムーズに入所できることを希望します。
- * 生活を支える賃金に波があり不安定であること。ヘルパーの指導・援助体制が整備されておらず扱いがひどい事。
- * 老人性うつ、精神疾患等で生活援助が必要な方がいる一方で、自立度の高い要支援認定を受けている方が生活援助を受けている。そんなケアプランがよくないと言われればそれまでだが、生活援助のあり方に考えさせられます。
- * この仕事について7年になります。本当にこの仕事の必要性和、本当に大事な仕事と実感しています。なまはんかな気持ちではつとまりません。良い仕事ではありますが、ヘルパーとして生活出来るかな？自立した生活が出来るかな？出来ているかな？
- * 専門職であるヘルパーが利用者宅に伺い、専門職としての視点で新たな課題を見つけてくれたことが多々あります。利用者の身近にすることができ、生活面をサポートしてくれるヘルパーだからこそと思います。軽度者だからその視点は必要ないといった事はなく、ボランティアの活用でそれが補えるかに不安を感じます。
- * 6月から登録制のホームヘルパーから、同じところの社員ヘルパー（某介護系株式会社）になりました。利潤追求と福祉の融和を謳っている会社です。現実には、売り上げ増のため、人材を育てないままの訪問介護事業所増設を繰り返し、現場スタッフが過労か退職に追い込まれる、悪循環が生じています。質の高い介護を提供すれば自ずと数字はついてくる、と上はハッパをかけますが、各自が無理の連続で、余裕と思いを失っています。市場原理と福祉はやはり相性が悪いように思います。ある意味、社員より自由度の高い登録ヘルパーは不安定で身分の保証無し。新卒など若い方が魅力を感じる働きかたとは思えません。手厳しい言い方をすれば雇う側は、登録ヘルパーを人格のある働き手ではなく、便利グッズのように捉えている気がします。（自分が社員になってそれが見えてきました）本日参加できないのは本当に残念です。個人がバラバラにされていることも状況が改善されない大きな理由と思うからです。是非、相互理解と、連帯を！
- * これから福祉職をめざす学生は変わりゆく制度や環境にどのように対応し勉学に励めば良いのか。
- * 30分・45分・60分と短い訪問が多くなり利用者の生活の様子を観察したり感じる余裕がない。決められた事柄を時間内に終了させることに気がいってしまい利用者に寄り添うことができない。
- * 1日9時間の拘束の勤務時間のうち、訪問に費やす時間が5～6時間になってしまうと、ケアマネへの報告やサービス内容の見直し、ヘルパーへの指導といったサ責本来の業務が十分にできない。その上、給料は安い。いつまでこの状態を我慢していればいいのか。本気で頑張れる何かがほしい。介護保険の先行きが不安いっばいでがんばれない！
- * 障害を持つ現在介護を利用している人が年齢を境に障害者福祉法から介護保険法に移行しなければならない。制度の矛盾は大きなまちがいでないでしょうか。
- * 仕事にみあう収入がもらえず気持ちが萎える！私のいるのはデイサービスですが、同じ法人の他の事業所も悩んでいます。
- * 専門職でなければできないケアを磨いていきましょう。
- * 2015年4月から介護の現場が変わっていくのが不安です。認知症の家族の方、本人への影響は？
- * 認知症ケアを行うにあたって夜勤中一人の時「帰りたい」と訴える利用者さんに対して何もできない。どうしたらいいかわからず、つい利用者さんに指示するような発言をしてしまう。
- * 登録型・非常勤のヘルパーが安定して働き続けられるよう雇用の「仕組み」を変えていく必要があると思う。仕組みづくりには現場の声が欠かせない。個々の人、事業者単位で難しい場合はこうした集まりでヘルパーの声をまとめていくといい。
- * 新総合事業は廃止。介護保険財政内でサービス・賃金を賄う制度設計の廃止を！

参加者の感想

- 論点が多岐にわたっていたけれど八木さん金山さん森山さんのおかげでうまく議論がかみ合って良かったです。
- 皆さんの意識の高さにびっくりです。ヘルパーの専門性にもっと磨きをかけボランティア等に負けないよう利用者との信頼関係を築き毎日楽しく仕事をしていきたいと思いました。
- 型式が新しくいろいろな意見が出て良かったと思います。

- 制度の中の「自立支援」のむずかしさを感じます。その人らしさを生きることをあと回しにしないようにしてください。
- 生活援助ボランティアがする。サービスの利用料を低く設定した時、利用料が低いので多少サービスに型式が不満があってもボランティアでよいという安上がりな悪い方向への流れにならないようにと思います。（今の学童保育の放課後事業への一括化とボランティアへの移行を見ていて、ヘルパーが同じようにならないければよいがと思いました）
- いろいろな意見が聞かれ参考になりました。ケアマネジャーとして是非ホームヘルパーの専門性を発揮していただき連携していきたいと思いました。
- 障害者介助・介護の歴史を調べると当事者を含めた「自立とは何か」という長い戦いがあったようなので、高齢者介護にも同じような動きが働けばな！と思いました。今日はそのスタートを感じる事ができて幸いです。
- 私はヘルパー・サ責を経験したケアマネジャーです。今日は部外者でしたが事業所内での軋轢が少しでもなくなるよう……。参考になることがたくさんありました。
- 伝説のヘルパーという発言が面白かった。私たち一人一人が伝説のヘルパーなのだ。でもね、ヘルパー自身が自立できない給与ではどうにもならないと思う。せめて年収240万は欲しい。でも現実半分だ！
- 司会の楽しい運営に引き込まれ、コメンテーター2名の適切なアドバイスに励まされました。また、家事援助の委託 イエスノーという討論は大変有意義なものでした。ぜひ記録集を作成していただければと思います。
- ややまいち！分科会、討論会とも運営の方の携帯が鳴っていたがせめてマナーモードにするべきでは！でもこれだけの人数が集まる機会に感謝です。運営された方々ありがとうございました。
- 今は実際に関わりがないのですが、ヘルパーを行っていた時利用者宅を訪問してみると十人十色で生活が違う。食材もある物で、掃除もあるもので行うことはその人なりの思いに合わせて時間で済ませることは大変だった。もっと評価されても良いかと思う。
- 参加してよかったです。人間は「こま切れ」にすることはできません。そして社会保障削減は全ての高齢者の生活の質の低下に関わると思います。（富裕層といわれるごく僅かな人のことはわかりませんが）ボランティアに専門性のない部分は任せればいいわ、などと言っているうちに生活介護のみならず全ての介護職の賃金に影響し、やがては介護の質の及ぶだろうと心配しているのです。マスコミの報道も？っていうこともありまじすし。介護保険発足当時の「介護の社会化」という理念はどこへ行ってしまったのでしょうか。追：両親の介護見取りでヘルパー疑似体験をしたのだと思います。味の好み・洗い物の仕方・トイレペーパーはシングルかダブルかなどという些細なこと。両親の生活の中で築かれたものでした。高齢者のみならずみんなそうだねと思っています。司会の方よかったです。お疲れ様でした。

